

平成25年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1473700399	事業の開始年月日	平成12年12月1日
		指定年月日	
法人名	社会福祉法人みやび会		
事業所名	グループホームやすらぎの郷		
所在地	(227-0054) 横浜市青葉区しらとり台3番地13		
サービス種別 定員等	☐ 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
		通い定員	名
	☒ 認知症対応型共同生活介護	宿泊定員	名
		定員計	9名
		ユニット数	1 ユニット
自己評価作成日	平成25年11月7日	評価結果 市町村受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.rakuraku.or.jp/kaigo/w10/wpjDetails.aspx?JGNO=ST1473700399&SVCD=320&THNO=14100
----------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

医療体制強化による健康管理。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鵠沼橋1-2-7 湘南リハウスビル4階		
訪問調査日	平成25年11月21日	評価機関 評価決定日	平成26年1月27日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

ホームは東急田園都市線青葉台駅から徒歩8分、またはJR横浜線十日市場駅下車、青葉台行きバスにて「つつじが丘」バス停下車徒歩3分の環状4号線から奥に入った静かな住宅街の一角にあります。近隣にはいくつかの高齢者関係の施設や事業所も立ち並んでいます。開所から13年経過しており、グループホームの先駆けとしての歴史やノウハウを積み重ねています。 <優れている点> 法人は医療グループをバックに持ち、医療体制を強化して、人工透析や胃ろうを必要とする利用者も受け入れています。協力医療機関の一つである在宅専用の医師とは24時間対応となっており、手厚い医療連携を構築しています。昨年末より新しい医療法人とグループ化し、利用者の健康や医療管理にさらに注力しています。職員自らが作成した理念をもとに、思いだけでなく意識づけ、具現化できるように職員全員が支援に取り組んでいます。ホームが利用者の「生きがい」・「喜び」・「安らぎ」のある生活の場となるよう職員は実践しています。 <工夫点> 利用者の健康管理、特に排泄についてきめ細かく対応しています。排便については便の疑似形体モデル(大・中・小の12類型)を職員が作成し、それに沿っての詳しい記録を残し、利用者の健康管理に役立てています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ～ 14	1 ～ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ～ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ～ 35	9 ～ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ～ 55	14 ～ 20
V アウトカム項目	56 ～ 68	

事業所名	グループホームやすらぎの郷
ユニット名	やすらぎの郷

Ⅴ アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	重要性は理解されている。常に理念を具現化したケアへの取り組みを实践できるようお願いしているが、現状での評価までいたっていないかも。	理念は開設時にホームの皆で創り、その後平成18年に見直し職員で作り上げたものです。玄関に掲示し、新人の入職時の研修で共有を図っています。利用者は先輩として尊重し、喜びや生き甲斐のある生活の実現に取り組んでいます。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	交流機会はあるものの、利用者のADLの低下もあり、余り外出機会が少なくなっている。	地元の町内会に加入をしています。最近、地域との交流は利用者の心身の状況により少なくなっているようです。ボランティアが月1～2回来ています。地域の中学校の福祉体験生を受け入れ、交流を図っています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域内での地域貢献の機会は少ない。その分市や県といった所での支援等が多くなってきている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	法人の体制が変わったこともあり、GHに限らず福祉全体を通しての報告が多くなってきた。	運営推進会議のメンバーは町内会長、地区長、民生委員、家族で、行政、地域包括支援センターの出席は少ないようです。議題はホームの活動報告が中心で、現在は緊急警報の近隣への響き具合が課題となっています。	行政担当や地域包括支援センターなどの参加を積極的に求め、運営推進会議の充実とより活性化を図られるよう期待します。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	横浜市を中心に県等も含め情報交換はできてはいる。区の担当者との関係特に生活保護受給の入居者の担当職員の方々とは定期的な情報がなされている。	職員のトップは神奈川県及び横浜市のグループホーム関係団体の要職にあり、認知症高齢者に関する研修会の講師を務めたり、行政とは長く積極的に関わっています。研修会にはホームの職員も参加し、サービス向上に活かしています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束になるようなケアは行なっていない。梗塞の意義をしっかりと職員がわかっていると感じている。	「拘束なき介護推進部会」に積極的に参加して、県のモデル施設に認定されています。職員は身体拘束の弊害を十分承知しています。利用者との会話で不適切な場面があれば管理者はすぐに職員に注意を促し、拘束のない支援に努めています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待及び拘束も含めたケアは行なわないことが確認されてはいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度については資料等もあり、会議においても説明はしてきた経緯はある。今までは後見制度を利用するような入居者も居なかったこともあるが、現在は該当するに等しい人もいたので今後再度説明し理解を深めて行きたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	特に説明は十分に行っていると思っている。今まで、契約内容等についての苦情やトラブルもなかった。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族との意見交換はおおむね行われていると思う。	家族の面会は年々少なくなってきました。電話を通して、家族との意見交換を図っています。ケアプランの作成時には家族や利用者から聞き取った意向や要望を反映するようにしています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議または介護主任よりの報告を基に反映させている。	職員会議などで職員の要望や意見を聞く機会を設けています。管理者は職員が常に要望や意見を自由に言える、家族のような雰囲気を作るように努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	基本的に職員が働きやすい環境整備には心掛けている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修は基本にあるが、日々の実践の中での気づきや振り返りを中心にその場で考え解決していくようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	それなりに他の同業者との交流はある。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人からの聴き取りを行い、それを介護計画のなかで反映していくように努めてはいるがまだまだ十分とはいえない。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の意見は十分にお聞きしながら、日々の生活を含め関係作りには努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	定期的な情報収集を行い検討している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者間の関係作りには注意をはらいつつ支援している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の希望をふくめ、こちらから来訪等の要請をお願いするなどの試みはおこなっているが、ご家族の都合等で思ったような効果が期待されないケースもただある。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前に比べ、ご本人の認知度やADLの低下に伴い、以前のように行かない現実がある。	墓参りや誕生日の外出などの一人ひとりに合わせて継続支援をしています。友人や知人の面会は最近年1～2回となっています。散歩に出かけた時は、近隣の人と挨拶や会話をして交流しています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	関係作りには配慮し、互いに協力しながら生活できるように心掛けている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談があれば必要に応じて協力している。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人の意見や要望に耳を傾けるような配慮はしているつもりではいるが、本人本位の意向に沿っているかは難しい。	日常の会話を通して利用者の思いや意向を把握しています。意思表示の困難な場合は表情や仕草で思いや意向を汲み取るようにしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に情報収集は行ってはいる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	常に意識しながら現状の把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	一応介護計画のモニタリング等を行っているが現状に即した内容にしているつもりである。	モニタリングは3ヶ月毎に実施しています。計画の見直しは4ヶ月に1回行っています。見直しの際、職員は全員参加し、家族の希望や意向も反映するようにしています。面会のない家族へはプランを送り、内容の確認の上、実施しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録上には必要な事項は必ず記載し、必要に応じ対応を変えたりしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	対応は行われていると思う。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今のところ必要に応じてのみの対応支援になっている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関とは必要以上の協力関係が築かれているので問題はないと考える。	医療グループがバックにあり、行き届いた医療体制が整っています。往診も定期的にあり、本人や家族も安心して過ごすことができます。希望により、以前からのかかりつけ医に職員が付き添うこともあります。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護 S T との関係は柔軟に行えているし、原則週 1 回の訪問を含めてほぼ良好に行われている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院について医師と十分に打ち合わせを行い、その都度ご家族様にも報告をおこなっている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療機関を含め、段階的な方針や方向性については協議している。	看取りは既に多く経験しています。医師・看護師・職員・本人及び家族がチームとして支援に取り組んでいます。医療連携が整うなか、本人や家族の意向を踏まえながら、その方針を共有しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変、事故発生対応の手順等は一応統一されてはいるつもりである。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	まだまだ不十分であると感じている。職員の意識も含め、訓練や備蓄等の整備も検討する必要がある。	夜間を想定した避難訓練や消防訓練を実施しています。建物の構造上、すぐに裏の出口からの避難も可能です。災害時に備え、水・缶詰・乾パン等を備蓄しています。また、法人内グループでの備蓄も共有、融通できるようになっています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格等を傷つけないように配慮はしていると思うが、言葉掛けやコミュニケーションのスキルアップを図る必要性も感じている。	尊厳をすべての基本に考え、職員は入居者に接しています。生活歴や本人の思いに馳せながら、親近感も大切に考えながら対応しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	基本的には自己決定を基本に生活の支援を行っている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員間での業務においても利用本位のケアの取り組みを心がけ、その人のペースに合わせた支援を行うよう取り組んでいる。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容やお化粧品も含め支援している。			
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員も一緒に食べたり、片付けの手伝いも協力して頂いたりしている。	食材は給食業者から調達しています。福祉メニューを採用し、職員が調理しています。職員は入居者の好みを聞き、季節に合わせ正月会や誕生会、鍋パーティー等を実施して食事を楽しむことのできる支援をしています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランス、水分摂取状況の把握は職員全員が意識し支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々に応じた支援を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表に基づき、入居者がむりなく排泄できるように支援している。	排泄のパターンを把握して、職員はタイミングよく声掛けし、トイレへ誘導しています。毎回、清拭も実施しています。便については職員の工夫による表現で形状や量をわかりやすく細かく記録し、支援に役立てています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医師とも打ち合わせをしながら状況に応じた支援をしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	本人の身体状況を含め、無理のない範囲での入浴支援を実施している。	入浴は週3回を基本にしていますが、希望があればいつでも入浴可能です。香りのよい入浴剤を入れたり、季節により柚子湯や菖蒲湯も行って、入浴を楽しめるよう支援しています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活リズムに応じた支援を行いながら、安心と安らかな睡眠が取れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとり使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理をはじめ、与薬ミスなどもおこらぬよう十分に配慮はしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ボランティアさんや華道などの教養娯楽も一部取り入れ、無理のない範囲で支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来る人も一部おられるが、だんだん難しくなっている現実がある。	日常的に近隣の住宅街をひと回り散歩している入居者もいます。近くの高齢者の施設入居者と出会うこともあり、挨拶を交わしています。外出の難しい入居者は玄関前の広場で日光浴や外気浴を楽しんでいます。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一部の入居者は家族と相談しながら支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人からの申し出も含め必要に応じて支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ハード面での部分は難しい所もあるが極力工夫をしながら整備していくよう努めている。	開設から10年以上経過していますが、各所、清掃が行き届き清潔に保たれています。リビング兼食堂は常に入居者と職員の憩いの場となっています。距離感なく家庭・家族と感じられるような雰囲気、居心地良く過ごせる空間となっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	構造上での工夫には難しさがあるものの、個々では自身の思い出過ごしている時間は確保されている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	基本的には今まで使われていた什器備品を持ってきて頂いている。	居心地良く過ごせるように利用者はそれぞれ好みの家具を持ち込み、飾り付けをしています。整理ダンス、テレビ、鏡台、仏壇等を思い思いにレイアウトしています。以前にもらった賞状を飾り、思い出を語る利用者もいます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	常に安全な環境づくりには配慮しているつもりでいる。		